


行政視察等報告書

令和元年10月15日

境港市議会
議長 柗 康 弘 様

会派名 無所属
代表者 景 山 憲 

下記のとおり行政視察（調査・研修）を行ったので、その結果を報告します。

記

1 視察等期間	令和元年10月3日（木）
2 視察等先及び内容	<p>△視察先 西伯郡南部町 地域共生社会実現施設 いくらの郷</p> <p>△視察内容 「誰もが参加。活躍できるまちづくり」について 「中山間地域の活性化・地方創生社会の実現」について</p> <p>特に、学校や社会にうまくなじめないと感じていたり、社会への第一歩を踏み出せずにいる若者たちに田舎の大自然のなかで、体を動かし、汗をかき、少人数の共同作業を通じて、誰もが持っている自己回復能力に働きかけ、社会参加をめざす。</p> <p>○当日は、運営主体である、社会福祉法人 伯耆の国、地域共生社会実現施設 いくらの郷 のそれぞれ担当者から説明を受けた。</p>
3 視察等議員	景 山 憲
4 総 経 費	合計（1名） 500円 （視察当日 資料代金 として） ※一人当たり経費に端数が出る場合は円未満切り捨て
所 見 等	以下のとおり

○いくらの郷

△内容について、概略は以下のようなことであった。

持続可能な町づくりのために、自然溢れる環境で課題解決を試みる。
このことを前提に、社会に馴染めないと感じていたり、引きこもっていたりしている若者の社会参加が出来るきっかけとなる、また、中山間地域の活性化を目指し、「小規模農林業の振興」「特産品開発と販売ルートの確保」を掲げ、古民家をリノベーションした落ち着いた空間を確保し、心も身体も健やかに再生しようとする施設であった。

とりわけ、社会復帰・就労を希望する方が、日中活動の場として利用し、実現を目指す。地域・家庭との結びつきと、保健・医療・福祉サービスで地域包括ケアを実践しようとするもの。

○運営には、所長以下、常勤職員（社会福祉士、精神保健福祉士、管理栄養士）
・非常勤指導員の3名

○施設

この施設は2018年5月から受け入れを開始し、最初は2名が内覧会に参加。心療内科への通院者でもあったので、医療機関との連携、社会福祉協議会の担当者等の連携が重要。

日常の作業としては周辺の草刈、夏野菜づくり、特産品づくり等、木工作業、農業機器の操作。講習受講、社会復帰に向けての今後の見通しについての相談・提案、（今では、集落からの信頼もあり、大きな力となっている。）介護職員初任者研修受講等の体験など。

○当該施設は、開設以来1年半と日が浅いものであるが、前南部町長の強い思いから実現に至ったものがあることが伺えた。

この施設の立ち上げには、古民家の確保、約3800万円という多額な改修経費が必要であったが、国1/2、町1/2の補助を受けたものであり、運営費については、今後5年間、社会福祉協議会から2500万円、社会福祉法人伯耆の国から年1000万円の補助金が予定されているが、6年目以降は補助金の予定はなく、単独収入他での維持が求められている。

■所見

この施設では、現在、利用者が他の会議施設の新規採用された方もあり、早くも引きこもり、ニート者の社会復帰の実現に大きな実績を上げている。

今や全国で1000万人ともいわれるニート、引きこもり者をいかに社会復帰に導くのか、安定した地域社会の確立、維持には欠かせない事業であり、自治体としても取り組みを強化すべき課題である。本市でも、行政、事業者、又は、企業などとの連携により施設設置にむけて調査・検討を始める必要を大いに感じたところである。